



# 綾波XX

極 秘

# 人類XX融合計画

## 第11次中間報告

# 報告書

## case.1 XX融合実験

- ・第三の使徒撃破から使徒のサンプルを採取。  
本実験においてサンプルを「XX」と呼称する。
- ・第三使徒と人間のDNAが99.89%一致していることが判明。
- ・回収されたDNAの一部と人シンクロさせ、  
過程、結果を記録することが本計画の目的である。



研究区画 X A - 03号分室。

実験には綾波のスペアを使用。  
不完全ではあるがメインの記憶を移植した。  
使徒の細胞サンプル「XX」を投与した。



綾波の胸部に使徒のコアに酷似した結晶体を確認。  
使徒との融合は順調に進行しているものと思われる。





赤い結晶体は彼女の体内に沈下。  
肉眼での確認は不可能になった。



# 綾波の悪夢



闇の中。私は、誰かに襲われていた。







げあッ

んっ

「何これ……あなたは誰……」

びびッ

びびッ



「いやっ、私の中に入ってこないで！」

あぁ

んめめ

ズズズ

ズズズ





闇と一つになっていく。  
どこまでが私で、どこからが私じやないのかわからない。

ああ

んぬぬ

ズズズ

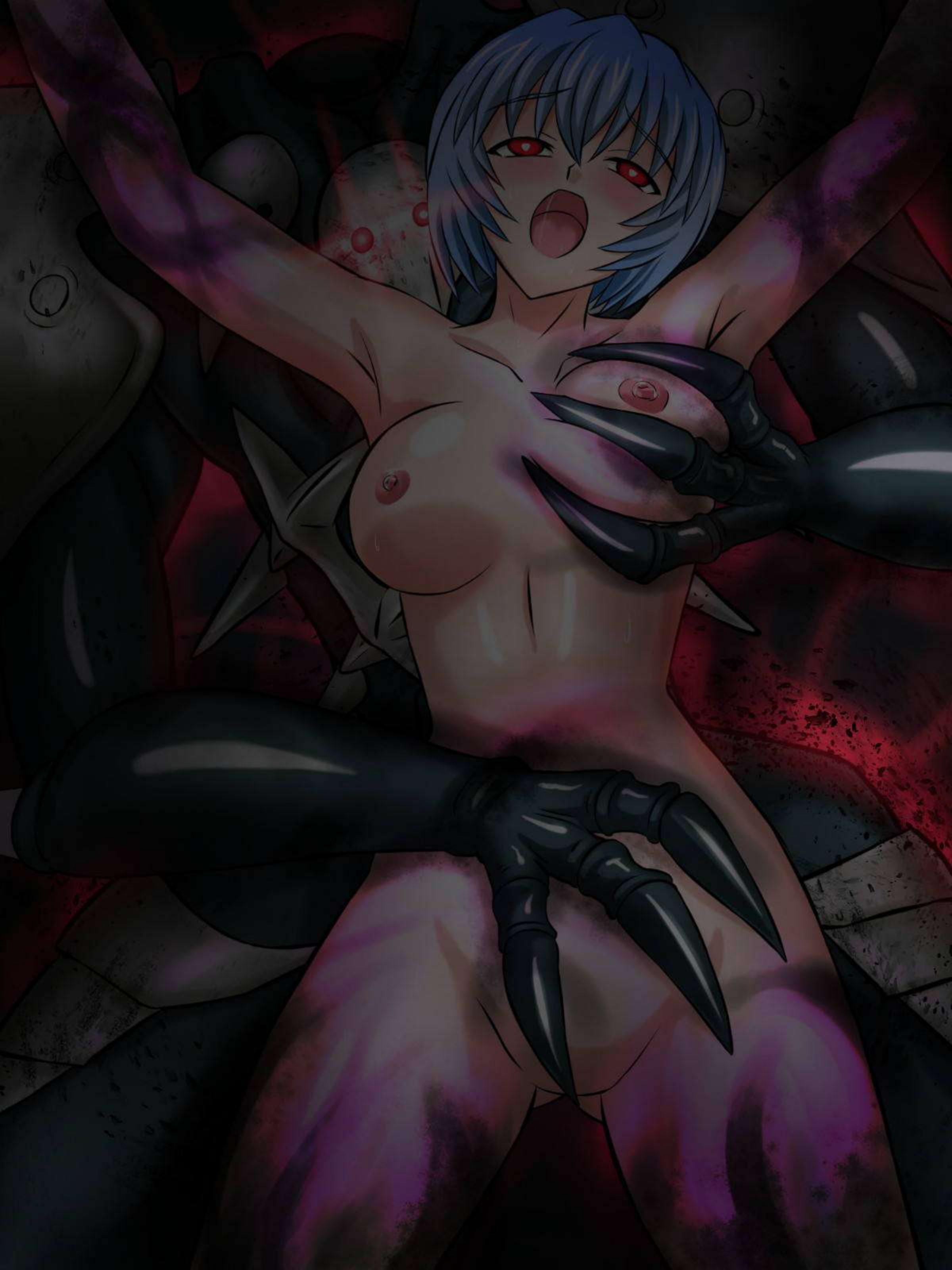
ズン

ズズズ

フキユツ







# 報告書

case.2 XX覚醒実験



■XX覚醒実験01

DNAのサンプルを研究した結果、  
生存本能が高まると「XX」が活性化されることが確認された。  
「XX」を活性化させるため、生殖行為による実験が行われた。





実験開始。  
男は綾波の股間を愛撫した。





綾波は拒絶した。  
「んっ、やっやめてっ!」  
すると、綾波の身体に  
変化が見られた。





鎖骨の付近が赤く光り、盛り上がる。  
皮膚が割れ使徒のコアと酷似した結晶体が  
体表に現れた。







胸部の変化に続き、  
左腕が音を立てて形を変えていく。

メキッ  
メキッ

あ

めめめ









異形の腕から、青白く光る槍が伸びた。  
男は頭を槍に貫かれ、絶命した。

ズバツ

ビクッ



綾波は男を拒絶した。  
鮮血に染まるヘッド。



はあ

はあ

ドクッ...



■レポート


犠牲は出たが、実験は成功。  
まだ完全ではないが、  
綾波と「XX」が融合しつつあることが確認できた。



# 綾波の悪夢

## 二回目





また誰かが私に近づいてくる……………。  
これは夢？  
あれは使徒？  
やめてこっちに来ないで……………！！



「いつ嫌あつ！放してっ」



グ  
ニ  
ニ

はあ、

はあ、



「何をっ……!!」

使徒の股間から生えた光る肉棒が  
私の中に入り込もうとしてくる。

「やめてっ! 入ってこないでっ……んあああっ!」

ズズ

いっやっ

あ





「んああ！ 何これ……んっ、私の中に入ってきて……！」  
使徒に浸食されていく。身も心も変貌していく。



メキッ

ビキッ

あゝ

あゝ



「交ざって………一つになる………んあつ、ああああ！」  
恐怖はなくなり快楽が全身を駆け巡る。  
何を恐れていたのだろう。  
拒むことはない、だってこんな気持ちいいのじ。

メギッ  
ビギッ

ぬぬぬ

んあつ





そして私たちは完全に一つになった。









# 報告書

case.3 XX覚醒実験 02



■XX覚醒実験02

再び生殖行為の実験を試みる。

先の反省点を活かし、綾波に主導権を握らせることにした。







綾波は意外にも素直に男性器を体内に入れた。  
挿入の感覚に声を漏らす綾波。  
性的な興奮を得られていることが確認された。



綾波は通常の性行為と同様に腰を振り  
性的興奮を高め続けた。

が、その時、綾波の様子の変変があつた。

「だめっ……来ちやうー！」

綾波の身体が、がくがくと震える。

「あっ……あああっ！」





「私の中から何かが沸き上がって……んっ」  
綾波の胸部が光っていた。

それは前回の実験で、綾波が変化する直前の反応と同じだった。











ビビッ

キキッ



使徒のコアらしきものが出現。  
それを合図にしたかのように綾波の肉体は変化していった。





皮膚が盛り上がり硬化していく。  
固まった箇所は、第三使徒と同じような黒や灰色に染まっていった。







彼女は異形の姿へと変身した。  
前回の比ではない。  
全身の至る所が使徒と同じ様に変化していた。

ビクッ

ビクッ





「んはっ……あああっ」  
全身が変化していた。  
人と使徒のDNAが融合した姿。  
その顔は変身を遂げたことに快感を感じているかのような、  
妖艶な笑みを浮かべていた。  
以前の綾波からはとても想像できない表情だった。





男が限界を迎え綾波の中に射精した。  
「んんっ、出てるっ！中にいっぱいっ♡」





ペニスが抜け、熱い精液を綾波に浴びせる。  
「あっ！あああっ!!」





ドロドロの白濁液を浴び、綾波はうっとりとし笑みを浮かべる。

「はあっ……はあ……」

もっと、もっとちようだい……♡」

綾波の性欲はまだ満たされて無いようだった。

はあっ♡

はあ♡

べっ♡

べっ♡

べっ♡





だが綾波の変異に混乱した男は、これを拒絶した。  
綾波の表情には、誰の目から見ても憂いの感情が見て取れた







綾波は暴走した。  
異常を知らせるブザー音が鳴り響く。

警告音

EMERGENCY



止める間もなく、男の首は引きちぎられた。  
暴走した綾波に対して、男は何一つ抵抗できなかつた。





「対象の心肺停止を確認」  
「実験中止！」  
研究者が駆け付け付けた時、部屋は真っ赤に染まっていた。





使徒の持つ攻撃性が綾波を変えてしまったのかもしれない。  
彼女の暴走を止める術はあるのだろうか……。  
果たして、この実験の行きつく先が希望なのか絶望なのか。





# 報告書

case.4 XX覚醒実験3.0



■XX覚醒実験03  
使徒の一部を融合させた綾波の実験は継続された。







変異した状態を引き出すため、  
今日も性欲に満ちた肉棒がねじ込まれる。





綾波の快感が高まり、コアが姿を現す。









はああ?  
ああ?

ブルブル  
ブルブル

ジュルル  
ジュルル

絶頂と共に綾波は変身した。





「お腹の中、熱いのがいっぱい……」  
「ビクビクって出てるの気持ちいい……」

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ





「でも……、これが私の欲しかったもの……?」

綾波の表情が曇る。

震える綾波の秘所から白濁液が垂れ落ちた。

はあ

はあ

ズンズン

ズンズン





「XX」の覚醒実験は成功。  
しかし覚醒後の彼女の状態が不安定な為、さらなる研究が必要である。



# 報告書

case.5    XX覚醒実験4.0



■XX覚醒実験04

今回は、異形化後の綾波の安定化が目的だ。  
変身した綾波は、生殖行為を求め続けた。  
まるで何か足りないものを埋め合わせるかのように。

「身体が疼くの、……それが欲しい。」

「ねえ、私の中を……あつたかいので満たして……」





男のモノが挿入される。  
挿入の快感に身体を震わせる綾波。  
「んあっ、これが欲しかったの、……っあん！」

ズ  
ン  
ズ  
ン

ズ  
ン  
ズ  
ン





「もっと犯して、メチヤクチャにしてっー！」  
性交がますます激しさを増す。  
「っあん、んああっ！」

ああん

ああん♡

ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ





男が精液を綾波の中に注ぎ込む。

「あっ、来てるっ!!

熱いのっぱいっ……!!」



あぁぁ♡

あぁぁ♡

ゴッ

ビュ  
ブルブル



「暖かい……………これが欲しかったもの……………  
でも……………お腹がこんなに熱いの……………  
なんで胸の奥がずっと冷たいの……………」





「私の……本当に欲しいものはこれではないの……?」  
異形化後の綾波は不安定だった。  
異様なまでに性交を求め続け、時に暴走した。  
実験の方法を再考する必要があると思われる。





身体は気持ちいいのに  
なぜ胸の奥がこんなに寒いの………？





私が本当に欲しいものは……





夢の中  
もう一人の私





あなたは誰……………？  
もう一人の……………私……………？





もう一人の私の心が流れ込んでくる。  
痛い……悲しい……切ない……寂しい……。





碇君と……ひとつになりたい。



# 報告書

本件に関連すると思われる事案  
使徒との戦闘において零号機が自爆。  
ファーストチルドレンが生存不明。

その同時刻のXX実験体の記録



# 報告書

case.6 XX行動記録



私の中に流れ込んでくる  
もう一人の私の心……。





んっ………碇くんっ



ああ?

んっ

んっ

んっ

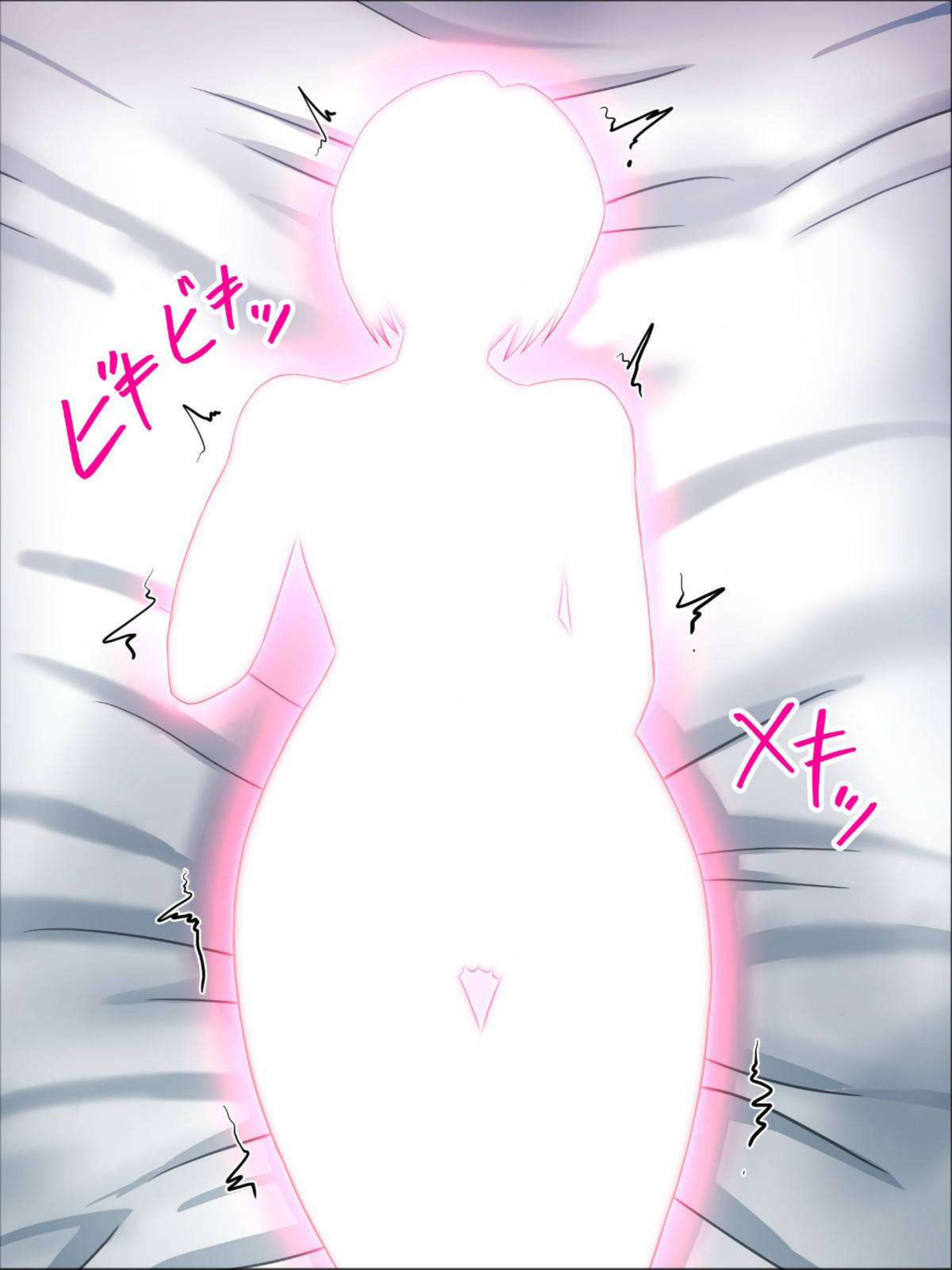












ビキッ  
ビキッ  
ビキッ

キキッ  
キキッ



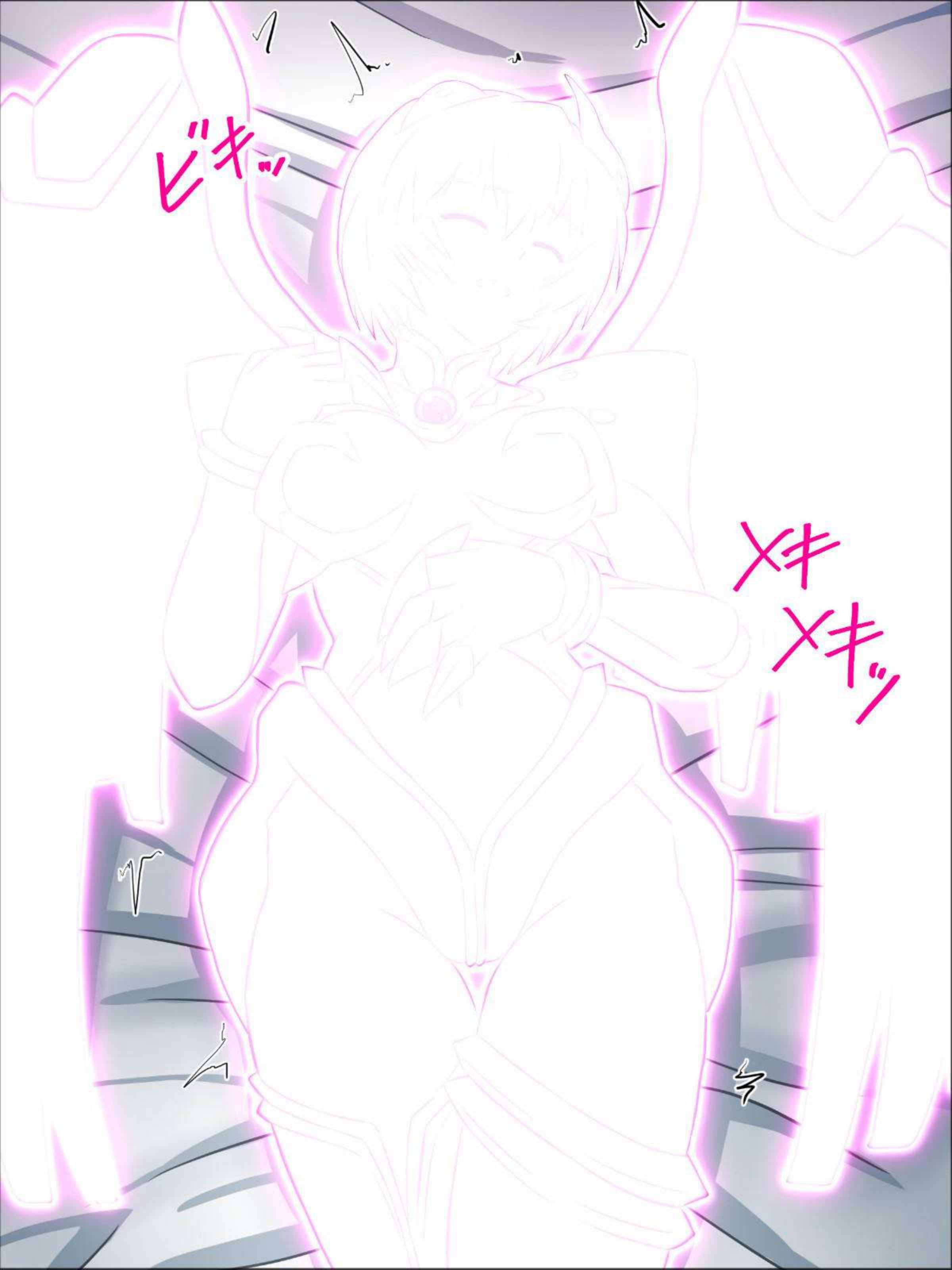




ビキッ

Xキッ





ビキッ

キキ  
キキッ

ッ

ッ

ッ





碓くんと……ひとつになリたい。

はあ

はあ



# 報告書

実験体が逃亡。

サードチルドレンと接触。



「綾波っ……………!!」

よかった……………、君が生きてて……………」

「……………私のこと心配してくれてたの?」

「当たり前じゃないか! もう、あんな無茶なことするなよ……………」

でも……………その姿は……………」

「……………これが今の私、ごめんなさい碓君……………」

「私……………実験でこんな身体になっちゃったの……………」

「どんな姿になっても関係ない。

こうしてまた会えたんだから。

一緒に生きようって約束したじゃないか……………」

僕は、もう君を失いたくない……………」

「碓君……………」





「碇君のビクビクして……すいへん元気」



綾波が張りつめた肉棒を咥える。  
水音を立てて前後に刺激していく。







「うっ……くっ、もう出るー！」  
「シンジの身体がビクビク震え限界をきていた。  
「んっ、出して碓君の好きな所どっ」





「綾波いいー！」  
腰をグンと突き出し綾波の顔に精液をぶちまけた。



白濁液を浴び、身体を震わせる綾波。





「いんなど興奮してくわて  
どっりも嬉しう……」

はあ、

はあ、

ドゥロロロ

クワクワ







「綾波っ、もう我慢できなない」  
「私も………」つどなりまじよう  
綾波が碇の上にもたがる。



腰を下ろし繋がらあう。



グッ

グッ

グッ

グッ  
グッ  
グッ



「……碇君と、こうなりたいって……思ってた」  
「僕もずっと前から、綾波とこうしたかったんだ」



ブ  
フ  
ブ

ア  
ク  
ア

ア  
ク  
ア



「あんっ、こんなにつ、気持ちいの初めてっ!」  
「くっ! 綾波の中あつたかくて気持ちよくて、もう限界っ!  
「私もっ、来ちやう体の奥から……!」

はあ

あ

ブ  
ブ  
ブ

ブ  
ブ  
ブ





「いっっちゃううっ、んはあああ!!」  
精子が綾波の中に解き放たれ、  
二人は絶頂を迎える。

あああ♡

ああ♡

グ  
グ  
グ  
グ  
グ

ク  
ク  
ク  
ク  
ク





「暖かい、嬉しい、いろんなものが  
私の中に流れ込んでくる……」



はぁ♡

はぁ♡

てんてん

びゅん





「こんなの初めて……  
胸のあたりがポカポカする。  
これが……私の心、  
私の欲しかったもの……」



# 報告書

サードチルドレンがXX実験体と逃亡。  
あらゆる最悪の事態が懸念される。  
人類の命運は彼らの手にゆだねられたといっても  
過言ではない……………。

(記録はここで途切れている)